**旧岐阜県庁総合庁舎床面**

これは旧岐阜県庁の議場の床の一部である。

旧岐阜県庁舎は、地震で旧県庁が被害を受けた後、1924年に建設された。ステンドグラスやアール・デコ調のマントルピース、カラフルなモザイクタイルの床など、内部には多くの装飾が施されていた。この建物は1998年まで使われていたが、鉄筋コンクリート造の新しい建物を建てるために取り壊された。

床に使われているモザイクタイルは、歴史ある陶磁器の産地である愛知県常滑市で生産されたものだ。それらを岐阜の建築現場で一枚一枚敷き詰めて、このような六角形の模様を作ったのである。断面を見ると、釉薬ではなく土に直接色を混ぜている。この方法には、無釉のタイルにより、フローリングで重要な滑りにくいという点と、釉薬を使用した劣化しやすいタイルに比べ、耐久性に優れている点という2つの利点が存在する。よく見ると、確かに欠けているタイルもあるが、着色がタイル全体に及んでいるので、一目見ただけでは気が付かない。